

「土砂災害について」

神奈川県 南足柄市立福沢小学校 6年 ^{やまぐち}山口 ^{そうた}颯太

昨年の夏、広島市など全国7市町で土砂災害が起きました。僕は、当時テレビで見た広島 of 災害の様子を忘れることができません。くずれた山の下じきになった家や木が、まちの中にまで流れこみ、大量の土砂でうまっていました。たくさんの方が犠牲になり、大きな災害になりました。

日本は、山や谷が非常に多いため、川の上流と下流の高低差が大きく、大雨がふると、浸水などのひ害が出ます。また、土地の性質上、火山灰の土地は大雨になると、一気に山がくずれ、土砂が流れて災害になりやすいと聞きました。

僕の住んでいる南足柄にも、高い山や川があります。台風で大雨がふった時などは、とても危険な場所がいくつかあると思います。南足柄は、富士山がふん火した時のよう岩の石が地そうにあるため、くずれやすい場所があります。過去の台風でも、がけくずれが起こり、道が通れなくなったこともあったそうです。

災害は、いつ起こるか分かりません。僕は、土砂災害が起きる兆候が分かっていたら、安全に身を守ることができるのではないかと思います。特に、山のしゃ面の近くに住む人は、しゃ面からどろ水に混じって小石が落ちて来たり、山鳴りがしたりするそうなので、そのような時は、土砂災害が起きる前ぶれなので、注意が必要です。

「い変に気付き、一早くひ難できたことが幸いだった。」とテレビで話をしているおじいさんがいました。夜だったけど、小石がまどにぶつかってきたり、ゴォーッという山鳴りが聞こえたそうです。命は助かったけれども、家はこわされ、逃げおくれた近所の人は、あつという間に土砂に飲み込まれ亡くなってしまったと、なみだを流しながら話をしていた姿に、土砂災害のおそろしさを感じました。

土砂災害は、突然起こることが多いので、家の周りで土砂災害の兆候を見つけたら、一刻も早くひ難することを心がけるのが大事だと、僕は思います。

毎年9月に、地域の防災訓練があります。防災訓練では、実際に災害が起きた時をそうていし訓練をしています。僕も、訓練に参加していますが、地域の人と顔を合わせ話をしたりして、互いの状きょうを話しています。日ごろから、地域の人と顔見知りであることや、困った時に助け合えるような関係を築いていくことも大切なことです。

災害が発生したら、家族が無事かどうかとても気になります。日ごろから災害についてひ難場所や、連らく方法など家族で話し合うことも必要だと思います。また、災害に備えて、僕が今出来ることは、ハザードマップの確認をしたり、最低でも3、4日の食料や水を用意しておくことだと思います。

災害が起きた時、ひ害の状きょうによって、配給がすぐに行われぬ可能性もあります。各家庭で、食料を備えておくことは、災害に対して、とても大切なことだと僕は思いました。

家族と防災について、きちんと話し合っって少しでも災害に対する不安をなくしたいと思っています。